「平成３１年度に実施した仕事」の振返りシート（Ａ：裁量有）

記入日　令和　２ 年　６ 月 30 日

事業名称	高齢者慶祝事業費[敬老金支給事業]								
予算科目	款	３	民生費	項	１	社会福祉費	目	３	老人福祉費
事業番号	５								
事業の種別	☑市単独　☐補助対象　☐市が実施することが法律等で義務付けられているもの（市の上乗せあり）								
担当部署・課長名	高齢介護 課	高齢福祉 係	課長名	伊野宮　崇					

この仕事は、どの【施策】の課題を解決するための手段ですか。

【施策名】　高齢者保健福祉の推進

施策番号：２ － ２

総合計画書（ページ）：51

１　この仕事の目的

❶ 誰（何）を対象にしていますか。		1 ❶の対象数や量を、あらわすもの（対象指標）
9月１５日現在で８８歳、９９歳の市民	➜	６５歳以上の市民（毎年９月１日付の数値で計測）
❷ ❶をどのような状態にしたいのですか。[簡潔に]		2 ❷の状態になった数・量をあらわすもの（成果指標）
敬老の意を表されることで、 生活意欲の向上と生きがいの増進に繋がっている	➜	支給者数
❸ そのために何をしましたか。		3 ❸をどのくらい行いましたか（活動指標）
9月１５日現在で８８歳、９９歳の市民に対して、５，０００円を支給した。9月１５日から３０日の間に民生委員が個別に訪問し、直接渡している。	➜	9月１５日現在で８８歳、９９歳の市民

２　指標の推移

		単位	過去2年間の実績		当該年度	成果目標	
			平成２９年度実績	平成３０年度実績	平成３１年度実績	令和２年度目標	令和３年度目標
対象指標	1の数値	人	22,484	22,754	22,963		
成果指標	2の数値	人	296	350	342		
目標	2の目標値	人					
目標	目標値設定の考え方						
目標	年度ごとに対象者が決まっているので、目標を設定するにはなじまない。						
活動指標	3の数値	人	88歳　280 99歳　16	88歳　３３６ 99歳　１４	88歳　324 99歳　18		

３　経費

		単位	平成２９年度実績	平成３０年度実績	平成３１年度実績
事業費（実績）		円	1,480,000	1,750,000	1,710,000
財源	一般財源	円	1,480,000	1,750,000	1,710,000
財源	特定財源	円	0	0	0
財源	（うち受益者負担）	円	0	0	0
人件費（目安）	所要人数(再任用以外)	人	0.05	0.05	0.05
人件費（目安）	所要人数(再任用)	人	0.0	0.0	0.0
人件費（目安）	職員人件費(再任用以外)	円	412,650	412,200	415,500
人件費（目安）	職員人件費(再任用)	円	0	0	0
事業費＋人件費		円	1,892,650	2,162,200	2,125,500

※人件費の所要人数は、基本的には「人」で表わしますが、一時的な仕事については時間数での表示も可とします。その場合単位を「時間」に変更してください。
人件費（再任用職員以外）
年間単価は、　8,310,000 円
時間単価は、　　4,300 円
で計算してください。
【算出根拠】平成30年度決算数値。
(退職手当組合負担金、共済費も含む。)

４　環境変化等

（１）開始年度　昭和53 年度

（２）環境の変化

東京都の敬老金支給が７５歳以上を対象としていたのに対し、当市（当時は「大和町」）は７０歳以上を対象としていた。昭和５１年度からは９月１５日と１２月１５日の２回支給していたが、平成１２年度からは９月１５日の１回のみの支給に変更された。その後、平成１３年度から平成27年度までは（７７歳、８８歳、９９歳）の節目での支給となっている。高齢者数の増加に伴い、平成28年度からは、支給対象者が88歳と99歳に見直された。また、近年は高齢化の進展に伴い単身高齢者や高齢者のみ世帯が急増し、問題の早期発見や孤独死・孤立死を防止するため、実態把握も兼ねている。

事　業　名　称	高齢者慶祝事業費[敬老金支給事業]			
担当部署・課長名	高齢介護　課　高齢福祉　係		課長名	伊野宮　崇

5 市民等の意見	この仕事に関して、**平成31年度中**に寄せられた市民・議会等の意見、また、市民・サービス利用者等の実態やその意識について
	特になし。
6 市民協働	(1)この仕事の実施にあたり、市民協働に取り組みましたか。取り組んだ場合、取組手法欄の種類から番号を選択し、取組手法欄に番号を記載してください。（複数回答可）
	☐ 取り組んだ ☑ 取り組まない
	取組手法：
	【取組手法の種類】 ①共催　②実行委員会・協議会　③事業協力　④事業委託　⑤補助・助成 ⑥情報提供・情報交換（広報媒体：　　　　　）⑦後援・場の提供　⑧その他（　　　　　）
	(2)令和2年度に向け、さらに適した協働の形態とするために「考え」「気付いた」点
	特になし。
7 課題	(1)平成31年度に課題とした内容（「平成３０年度に実施した仕事」の振返りシート 7課題（3）を転記）
	特になし。
	(2)(1)の課題解決に向けた取組や、事務改善など、平成３１年度に実施したこと。
	事業の見直しを行い、令和2年度から対象者を９月１５日現在で８８歳の市民のみとした。
	(3)(2)を踏まえた今後の課題（仕事の最適化・合理化の提案）
	慶祝事業については、公費を支出することに議論がある。
8	施策貢献状況　(この仕事は、総合計画（基本計画）に掲げる課題の解決手段になっているか。)
	施策名：　高齢者保健福祉の推進 ☐ なっている　☑ 環境の変化等により成果が減少している　☐ 類似の事業が他にあり改善の余地がある(事業名:　　　　　)
9 今後の方向性	(1)仕事の方向性（「7　課題（3）」の課題及び「8　施策貢献状況」を踏まえた具体的な改革・改善案など）
	☐ 拡大　☑ 現状維持　☐ 縮小　☐ 休止　☐ 廃止 【取組内容】 今後も引き続き事業の見直しを検討する必要がある。
	(2)上記(1)の取組にあたり、克服すべき問題点、必要な調整・準備等
	特になし。